コード No.21－S－004

提出日：令和４年４月３０日

令和４年度「コロゴッチョスラムの女性と子どもたちへの緊急生活食糧支援及び COVID19 感染防止予防のための公衆衛生支援活動（2年目）」報告書

団体名　特定非襟活動法人 Little Bees International
記入者名 高橋　郷

１．プログラムの目的

・COVID19 に対する誤解や誤情報による不安が収まり生活の安定化が進むとともに、活動を通じてコミュニティの連帯が深まりお互いを支え合う機運が生まれ、危機を乗り越える原動力となる。
・新型コロナのパンデミックの状況で、再拡大している HIV の感染を予防し、また感染者にも適切な処置を提供することで、地域社会における感染症への耐性を高め、保健衛生環境が向上し人々の暮らしに安心を届ける。
・HIV 陽性やシングルマザーの女性たちが希望をもって生活を営むことができるようになる。
・ストリートチルドレンも、活動を通じて健全な食育が進展するとともに、コミュニティの一体感が深まる中で孤独感から解放され、未来へ向けた歩みを団体が提供する学校教育とともに元気よく進めることができる。

ケニアでは令和３年度に入っても、まだまだ新型コロナの社会的影響は大きく、ワクチン接種も接種率は全人口の２％以下にとどまり、ワクチン接種の登録を行ってもワクチンの不足と富裕層優先の政策から、9 割以上の住民が 4～5 ヶ月以上、待たなくてはならない状況にありました。そんな中にあっても、スラムでも 10 代の女子学生の妊娠と、ユース世代の HIV の感染の再拡大も大きな問題となっています（団体調査で４割強が HIV に感染）。長期にわたる社会的隔離による経済活動の収縮は、日用品や農作物等の価格の高騰を招き、昨年度は貴御助成のお陰でなんとか乗り切ることもできましたが、再度、生活を支える物資にアクセスできなくなったコロゴッチョスラムの貧困層、特に脆弱な状況に置かれている HIV 陽性者やシングルマザーを中心とする女性と子どもたちに、引き続き命をつなぐための生活必需品（野菜や果物、水等）を届けました。その際には、パンデミック期間中もナイロビに留まって活動を続ける、元青年海外協力隊の方が現地で設立した農家組合とも協働して農作物の調達を行いました。また、生活密集地であるスラムにおいて COVID19 の脅威から人々を守るため、団体の女性ボランティアグループが製作したマスクや衛生用具（消毒液・石鹸）の配布も行いました。また、デルタ株をはじめとする変異体がもたらす感染の心理的、そして物理的恐怖を和らげるため、現地にて引き続き医療活動を実践する日本の NGO の稲田先生とも協働しながら、訓練を受けた現地の住民で団体の Community

Health Workers (CHWs)を中心に適切な予防対策を徹底するためのスラムの住民を対象にした講習会も、社会的距離に十分注意を払いながら開催しています。ユース世代への HIV の予防啓発、そして感染者への服薬指導も徹底して行いました。HIV で寝たきりの住民にも、訪問支援を行いましたが、、ストリートチルドレンにも、団体の運営する小学校（アマニ（平和）教育センター）を受け入れ場所として開放し、安心して生活できる場を提供しています。本活動は、現地のいのちをつなぐための緊急支援であり、明日へとつながる確かな希望を現地の人々に届けていくことを目的としています。

達成目標

１．コロゴッチョスラムの HIV 陽性者が適切な生活必需品を支給され、COVID19 の予防対策を実施することで保護される。
２．コロゴッチョスラムのシングルマザーの女性たちが適切な生活必需品を支給され、COVID19 の予防対策を実施することで保護される。
３．コロゴッチョスラムのストリートチルドレンが適切な生活必需品を支給され、COVID19 の予防対策を実施することで保護される。
４．COVID19 感染拡大防止のための適切な知識・情報に基づく対応がとられることで、コロゴッチョスラムの住民の間での不安が払しょくされ、住民間の連帯が深まり暴力事件が減少し、コミュニティの安全性が高まる。
５．ユース世代の HIV 感染を防止するための啓発活動、及び感染者への服薬指導も現地で活動を続ける稲田先生のご指導の下行うことで、ユース世代を HIV の感染拡大から保護し、感染者も置き去りにされることなく、適切な治療を受けられる環境が整備される。

２．主な活動内容・スケジュール

令和３年 10 月～12 月
・支援物資の調達と配布。支援物資配布のための対象調査。
・COVID19 予防のためのマスクの製作、コミュニティ内での無償アルコール消毒のポイント設置。
・子どもたちの学校への受け入れ。
・CHW と学校の先生たちへの NPO 法人イルファー稲田先生による公衆衛生指導。
・生活必需品の配布と食糧支援の実施。
・COVID19 の予防啓発のためのパンフレットの配布。
・講習活動の実施。
・女性グループによるマスクとバックの製作活動

令和４年１月～３月
・食糧支援の実施。
・コロゴッチョコミュニティ内の生活の実態と健康調査。
・COVID19 と HIV の予防啓発のための講習活動。
・学校における子供たちの COVID19 予防啓発のための活動とポスターの作成。
・女性グループによるマスクとバックの製作、販売活動。
・活動のまとめ報告。

３． 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）

○NPO イルファ―稲田先生による学校の先生方を対象にした感染症予防対策研修

○子どもたち、住民への緊急食糧支援

手洗いポイントの設置。

訪問支援

〇元青年海外協力隊員で養護教員の小林さんによる保健クラブ活動

〇女性たちによる裁縫活動（「マスクをつけよう」「手を洗おう」などのメッセージ付きのバック製作）

バックにつけるメッセージ

学校への消毒液の寄贈

女子学生へのナプキンの配布

チョークの寄贈

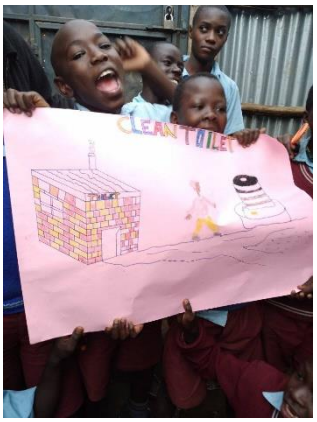
消毒液の寄贈

子ども服の配布

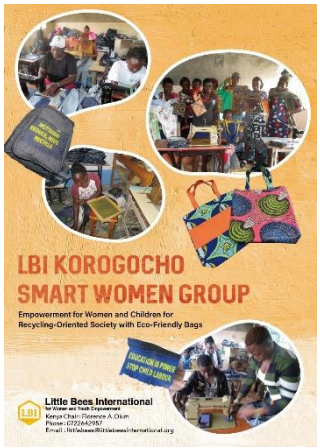
サッカーボール等の寄贈

４． 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

〇子どもたちによる COVID19 予防対策啓発ポスター



女性たちの活動チラシ



COVID19 予防啓発チラシ

５． 今後の課題

・年末より、世界的な原油価格の高騰が食品を含め生活必需品の価格の高騰につながり、貧困層の生活を直撃。団体の運営する学校及び、コミュニティ内のパートナースクール 5 校と積極的な貧困家庭の子どもたちの受け入れを進めているが、セカンダリースクール（日本の中学高校）に進学した子どもたちを持つ家庭では、教育費を支払うことができずに困窮化が一層進んでいる。こうした状況に対し限られたリソースの中で、どういった支援をどのタイミングでつなぐことができるかは大きな課題となっている。
・ケニア自体が、令和 4 年に入り、陽性率が 1%を切るなどコロナの感染状況は著しく改善されているが、都市封鎖期間を含む HIV の若年層への感染の拡大、そして結核やエボラなどその他の感染症への対策は、引き続き徹底して行っていく必要がある。貴財団様からの御助成活動を通じて、地域住民と CHW のコミュニケーションの連携は深まっており、コミュニティが一体化して課題に取り組んでいく機運がしっかりと醸成されているが、脆弱な貧困層の多いスラム地域では継続した寄り添いの活動と姿勢は、人々の日常生活を支えていくという観点からも大切となってくる。地域に根付いた活動を続ける現地のソーシャルワーカー、ヘルスワーカーとの連携活動をどう持続可能なものにしていくかも課題となっている。